

「総合物流施策大綱（2021年度～2025年度）に関する報告会」

議事概要

1 日時

令和3年6月28日（月） 13：00～14：00

2 場所

オンライン開催

3 出席者

根本敏則氏（有識者検討会座長）、矢野裕児氏（有識者検討会座長代理）、池田和幸氏、上村多恵子氏、小川博氏、小野塚征志氏、神林幸宏氏（金子千久氏代理）、川中子勝浩氏、苦瀬博仁氏、小谷光司氏、茂原令幸氏（佐藤清輝氏代理）、宿谷肇氏、高松伸幸氏、箱守和之氏、兵藤哲朗氏、藤野直明氏、二村真理子氏、堀尾仁氏、牧浦真司氏、馬渡雅敏氏

4 議事概要

【出席者からの主なご意見等】

- とりまとめに感謝申し上げます。今後は新たな大綱に基づいて各種取り組みを実行し、成果を挙げていくのみ。
- デジタル化の KPI について、物流 DX が目指すビジネスモデルの変革の度合いを数字で測ることは難しく、KPI 自体はこれでよいと思う。ただ、この KPI が達成されたからといって直ちに物流 DX が達成されたということになるわけではなく、物流のデジタル化等が進んだ後に、そこから本当の意味で物流の進化が始まるということになる。そうした意味で、5年終わったからすぐ次の新しいこと、ということではなく、その後も見据えて取り組んでいくことが重要。
- 高度物流人材について、先日もシンポジウムを開催された寄附講座数が KPI に設定されているが、そもそもどのような素質のある人、どのような要件を満たす人を高度物流人材と言えるのかというところを示すなど、もう一歩踏み込んだ対応が必要ではないか。
- 高度物流人材の育成に向けて、大学側も民間企業のニーズを把握しきれていないことから、民間企業のニーズも聞きながらカリキュラムを開発し、それを講座を提供する側に示していくようなことも必要。
- 物流標準化については、国際標準についても考慮しつつ議論を進めていくべき。

- トラックの標準運賃については、昨年はコロナの影響もあって荷主側からそれどころではないといった話もあったが、「担い手にやさしい物流」を大きな柱のひとつとして打ち出していただいたので、大きな流れの中で引き続きぜひ推進いただきたい。
- KPI について、例えばトラックの積載効率や再配達率などは、それぞれの KPI に多くの施策が紐付いてくる。KPI の数値だけが注目されてしまうおそれもあるが、KPI を達成するという背景に何があるのか、関係者によく理解をしてもらえることが大切。
- 新たな大綱が KPI や推進体制をきっかけにしっかりと推進されていくことを期待したい。物流関係者以外の人に読んでもらい、物流の現状を理解してもらうことが重要。また、高校生など若い人に物流に興味を持ってもらうことも大事。そうした意味で、発信の仕方についてもぜひ考えて工夫をして欲しい。
- 今回の大綱では物流効率化や環境面での取組に加え、「担い手にやさしい物流」を打ち出すことになった。ドライバーの労働時間管理が厳しくなる中で、限られた時間で付加価値を生み出すことが大事になってくる。その意味でも、パレットの活用等を進めていくことが重要。昨今、荷主・物流事業者ともに、物流標準化など、物流を取り巻く環境の改善に向けた機運が高まっている。新しい大綱にのっとなって、しっかりと改革を進めていきたい。

以 上

(文責 事務局)